

第1回安芸区まちづくり懇談会 会議要旨

1 開催日時 平成31年（2019年）2月21日 木曜日 午後1時00分～2時55分

2 開催場所 安芸区民文化センター4階 会議室

3 出席者

(1) 委員（17人中16人出席）

ア 学識経験者

池本委員

イ 各種団体の関係者（50音順）

金子委員、金月委員、上垣内委員、倉増委員、佐々木委員、中島委員、西井委員、西佐古委員、
畠山委員、松田委員、森重委員、森本委員、門前委員

ウ その他安芸区長が必要と認める者（50音順）

稲垣委員、上委員

(2) 事務局

ア 安芸区役所

安芸区長、副区長、厚生部長、農林建設部長、区政調整課長、地域起こし推進課長、生活課長
維持管理課長、地域起こし推進課職員

イ 企画総務局政策企画課

政策企画課総合計画担当課長、政策企画課職員

4 議題

(1) 座長、副座長の選出

(2) 広島市総合計画審議会の審議状況について

(3) 安芸区まちづくり懇談会の進め方等について

(4) 安芸区の特長、地域資源及び身近な課題について

(5) 安芸区のまちづくりの方向性（事務局案）について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 0名

(2) 傍聴者（報道関係） 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

議事資料1 広島市総合計画審議会の審議状況について

議事資料2 安芸区まちづくり懇談会の進め方等について

議事資料3 安芸区の特長、地域資源及び身近な課題について

議事資料4 安芸区のまちづくりの方向性（事務局案）について

(2) 参考資料

- 参考資料 1 安芸区まちづくり懇談会開催要綱
- 参考資料 2 安芸区まちづくり懇談会委員名簿
- 参考資料 3 広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について
- 参考資料 4 地域資源及び身近な課題に関するアンケート結果について
- 参考資料 5 安芸区の現況
- 参考資料 6 広島市総合計画（現行計画）の冊子

8 会議要旨

安芸区長のあいさつ及び委員紹介ののち、次のとおり議題審議等を行った。

(1) 議事

ア 座長、副座長の選出

池本委員が座長に、金月委員が副座長に、それぞれ選出された。

イ 広島市総合計画審議会の審議状況について

議事資料 1 に基づき事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）から説明を行った。

ウ 安芸区まちづくり懇談会の進め方等について

議事資料 2 に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行った。

エ 安芸区の特性、地域資源及び身近な課題について

議事資料 3 に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行った。

オ 安芸区のまちづくりの方向性（事務局案）について

議事資料 4 に基づき事務局（米谷地域起こし推進課長）から説明を行った。

(2) 主な質疑・意見

イ 広島市総合計画審議会の審議状況について

（倉増委員）

最近、子ども会活動が随分衰退している。例えば船越では 13 の町内会に 13 の子ども会があったが、今は 2 か所しかない。広島市は子ども会に対して、具体的にどのように支援しているのか。

（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

子ども会においても、地域コミュニティの一つであると認識している。担い手になる人を増やすために、町内会、自治会の加入促進のためのチラシの配布や、役に立つ情報の提供、子育て世帯の方が地域への住み替えをするときに引越し費用を一部助成するなどの支援を行なっている。また、実際に行っている活動に対して、活動費用を一部助成することにより、コミュニティ活動を活性化していきたいと考えている。

（金月副座長）

瀬野も子ども会が無くなった。子ども会に限らず、活動費用の負担が衰退の原因ではないか。

（中島委員）

経済的な問題だけではないと思う。特に畑賀の場合は担い手がない。担い手がいれば子ども会活動の継続は可能だ。

（島山委員）

議事資料 1 の 16 ページ、「活力の創出と都市ブランドの確立を目指したまちづくり」で、「拠点

地区」に安芸区では船越が載っているが、その論拠は何か。

(藤岡政策企画課総合計画担当課長)

都市計画部門の方で、公共交通結節点であるといったような、都市機能が既に集積している地区として、安芸区では、船越地区を拠点地区に設定させていただいている。

(畠山委員)

もう一つ、都市機能の充実強化で、例えば安芸区と海田町とか、安芸区と安芸郡とか、近隣町との連携ということは計画に載っていないのか。

(藤岡政策企画課総合計画担当課長)

説明を省略したが、議事資料1の19ページの「(3) 広島広域都市圏の発展への貢献」で、海田町、府中町、熊野町や周辺の市町を含んだ都市圏全体で発展していくと書いてある。ものづくり産業を強化するために周辺の市町の業者も含めて研究会を行なうとか、圏域の市町が有する行政施設の相互利用、福祉事務の共同処理等を行なうことにより、周辺市町と交流を進めて圏域全体の魅力を高めていきたいと考えている。

(畠山委員)

近隣市町との合併はもう永久的に無いのか。

(藤岡政策企画課総合計画担当課長)

現時点では合併を想定した計画にはなっていない。

(山本区長)

市長が200万人広島都市圏構想を掲げているが、都市圏の連携と言うのは必ずしも合併を意識してやっているということではなく、合併はとりあえず置いておき、みんなで盛り上がっていくというものだ。

オ 安芸区のまちづくりの方向性（事務局案）について

(松田委員)

4番目の東部地域について、阿戸町は鉄道が無く分断されているため東広島市と密接な関係が深い。この東部地域というのは、ここに書いてある4町に限定せず、広島広域都市圏というエリアの中で、東広島市との連携も考えられるのではないかと。

(米谷地域起こし推進課長)

200万人広島都市圏構想で23市町との連携は全市的に進めていく。東部地域については、4町に限定するものではなく、東広島市等、他の市町も考慮すべきと認識しているので、説明文の表現を事務局で修正し改めて提示する。

(中島委員)

現行計画の将来像の2番目にあった「健康」という言葉が除かれている。平均寿命よりも健康寿命の方が短いので、厚生部では健康寿命を延ばそうとして盛んに百歳体操を推進している。健康に対する住民の関心が高いので、「健康」という言葉をまちづくりの方向性に加えるべきではないかと。

(西井委員)

まちづくりの方向性の2番目に「健康」を入れ、「支えあいながら健康で暮らせる」が良いのではないかと。

(稲垣委員)

「まちづくり」は「ひとづくり」と私は考えている。中山間地域だけではなく、安芸区全体で「ひと」をつくっていくというイメージをしやすい表現のほうが好ましい。

(門前委員)

まちづくりの方向性に人に対するものが入ってない。広島県でも湯崎知事は人づくりを掲げている。人を作らないと良いまちづくりはできないので人づくりをどうするかということが大事である。

(池本座長)

稲垣委員や門前委員の指摘は、安芸区が直面している問題である「ひと」という言葉につながっている。「担い手」というだけでなく、「将来を託す子ども達」ということもある。こうした地域性を踏まえた表現があってもいい。

(金月副座長)

まちづくりの方向性の2番目の防犯・防災にしっかり力を入れていただきたい。海田町では防犯カメラを設置するのに全額町費が出るが広島市では自己資金が必要である。また、まちづくり活動に対する補助金は非常に有難いが3年で打ち切られる。事業を3年でやめるというわけにはいかず、そのためにまた自己資金が必要となる。それから、細かいことだが、補助金の申請書類が厳しいので、少し簡単に変えていただければ大変助かる。

(米谷地域起こし推進課長)

金月委員から財源の話があった。2回目以降、公共施設を利用して一定程度の資金が地元に戻ってくるような住民主体の取組手法を紹介する予定だ。